

## 懸念が高まる、カフェイン強化の食品&飲料

アメリカではこの数年、カフェインを添加したエナジー・ドリンクを飲んだ後に死亡するという事故が相次いでいるが、ニューヨーク・タイムズ紙によると、死に至らないまでも、エナジー・ドリンクを飲んだことによって表れた何らかの不調のために病院に駆け込んだというケースは、07年には10,068件、11年には20,783件。4年間で2倍以上にも増え、その数は増加の一途を辿っていると見られている。

エナジー・ドリンクを飲んだ多くの人が体調に異変をおぼえた原因が、カフェインにあることは言うまでもない。

食品や飲料に含有するカフェインに関しての法的な規制がなく、カフェインの過剰摂取に対する懸念がますます高まる中、FDAをはじめとする政府機関が、カフェインに対する取り組みに、いっそう力を入れる意向を示し始めている。

たとえば去る4月末、3人の民主党議員が連名で、主要なエナジー・ドリンクの製造元、14社に以下の4項目を含む申し立てを行った。

- ①製品に含まれるカフェインの量をパッケージにミリグラム単位で明確に表示せよ。
- ②「一定量以上のカフェインの摂取は健康上の弊害を引き起こすことがあります」、「同製品は、18歳以下、妊娠中および授乳中の女性、カフェインに敏感な方にはお勧めしません。また、薬を服用している方、何らかの病状がある方は、医師に相談した上でお飲みください」という警告をパッケージに表示せよ。
- ③18歳以下の小児、ティーンエイジャーに向けたマーケティングや広告を撤廃せよ。
- ④エナジー・ドリンクに関連のある深刻な事態などが報告された場合はFDAに届けよ。

また4月29日には、チューインガムの大手メーカーで、世界的食品企業であるマース社の傘下にあるリグレー社が、カフェインを強化した「アラート・エナジー・カフェイン・ガム」を新発売したが、FDAがそれに対応するかのように、「(カフェインを添加した食品や飲料について) 調査によって安全でない製品であると判断された場合、FDAはその製品の製造中止、すでに出回っている製品の回収を命ずる権限がある」という内容のコメントを発表した。

その中で「アラート・エナジー・カフェイン・ガム」については言及していないものの、同製品の発売がFDAを刺激したことは間違いない。

同製品は六角形のタブレット状のガムで、フレーバーは「ミント」と「フルーツ」の2種。いずれも1個あたり40mgのカフェインを含有しているが、パッケージで、そのカフェインの量はコーヒー1/2カップに含まれるものと同等であることをイラストを使って強調している。

特に子供やティーンエイジャーについてのカフェインの過剰摂取が心配されているが、リグレー社は、●25歳以上をターゲットにしている、●苦味のある大人向けの味、●割高の価格帯(8個入り: \$2.99)、●(従来のガム製品とは異なる)ユニークなパッケージ・デザイン、などの理由を挙げて、子供が同製品を通常のガムと混同し、カフェインを過剰摂取する心配がないことを暗にアピールしている。

市場にはすでに、エナジー・ドリンク以外にも、マシュマロ、ナッツ、ゼリービーンズ、スナック菓子など、さまざまなカフェイン強化食品が出回っているが、今後さらに増加すれば、さまざまな食品や飲料から摂取したカフェインの総量が許容範囲を超えてしまう可能性が高くなる。

また、11年秋に14歳の少女が人気エ

ナジー・ドリンクのひとつである「モンスター・エナジー」の24オンス(約710ml)缶を2本飲んだ後に死亡したケースについて、少女の病歴などを含め調査を行っていたFDAは、「同製品が少女の死亡原因になったとは証明できない」と発表した。しかし、カリフォルニア州サンフランシスコ管轄の弁護士、デニス・ヘレナ氏は、製造発売元のモンスター・ビバレッジ社に、(同製品の)カフェイン含有量を減らすとともに、未成年をターゲットにしたマーケティングをしないよう勧告した。

しかし、これを不当な要求であるとなししたモンスター・ビバレッジ社は、5月初旬にヘレナ氏を告訴すると発表。その成り行きが注目されている。

なお上記のサイズの「モンスター・エナジー」1缶に含有しているカフェイン量は160mg。パッケージには、「(同製品の消費量は)4時間ごとに1缶以内、1日に3缶以内に止めるように。小児、カフェインに過敏な人、妊婦や授乳している女性には勧めない」という旨の記載がある。

だが、FDAが1日のカフェイン摂取量として安全だとみなしているのは400mg以下であることから、「パッケージの記載にあるように、1日に(同製品を)3缶飲んだら480mgのカフェインを摂取することになり、FDAが言う安全量を超えてしまう」とヘレナ氏は指摘している。

いずれにしても、エナジー・ドリンクを中核にしたカフェイン問題に関する論議は、今後ますます白熱しそうだ。



4月末に新発売され、論議を巻き起こしているカフェイン強化チューインガム「アラート・エナジー・カフェイン・ガム」。

## “スーパーフード”としてニーズが高まるケール。ケール・チップスも人気

ケールは、ヨーロッパでは2000年以上前から食されてきたアブラナ科の葉物野菜。アメリカでは近年になって知ら

れるようになったのだが、昨年からケールへの注目度が高まり、その需要がにわかには伸びている。

ケールが脚光を浴びるようになった第一の理由はその栄養価の高さ。濃緑色のケールには、ビタミンA、C、Kをはじ